

科目名	アーティスト・セルフマネジメント概論
単位数	2.0
担当者	芸術学部 講師 菅 亮平ほか
履修時期	後期
履修対象	2・3年次
講義形態	講義
講義の目的	美術のプロフェッショナルとして、各自の創作活動を社会化させる過程で必要となるプレゼンテーション全般に対する包括的な理解を得て、セルフマネジメントの素養を身につけることで卒業後のキャリア形成に役立てる。 (2021年度新設科目)
到達目標	・プレゼンテーションの重要性を理解し、ポートフォリオやプロポーザルの作製に向けた自覚的な創作研究ができる。 ・美術の各分野での社会実践とキャリア形成に向けた具体的な準備ができる。 (知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協働性)
受講要件	・特になし。 ・油絵専攻の学生は2年次に履修することが望ましい。
履修取消の可否	可
履修取消不可の理由	
事前・事後学修	・各自の創作活動および進路の計画に沿ってポートフォリオやプロポーザルを作製する。 ・油絵専攻の学生は3年次に「ポートフォリオ演習」を行う。
講義内容	<p>アーティストにとって「表現」という言葉の意味やその行為の範疇はどこまでを指すのでしょうか。それは、作者と作品の単一的な関係の中だけで終始するものではありません。美術が「見て、感じ、考え、表し、伝える」という人間の社会生活におけるコミュニケーションの根幹に寄与するものであると考えたとき、他者との関係性に基づく「伝達」や「共有」といった観点が表現には常に伴います。従って、各自の創作活動において豊かな社会性を獲得するその過程の中のプレゼンテーションの総体が、アーティストにとっての「表現」であると考えられるのです。本講座では、ポートフォリオ、プロポーザル、ステートメントなど、作品制作の周辺あるいはその前後に必要とされる表現活動について、その基本となる考え方を具体的なメソッドとともに体系的に理解することを主旨とします。加えて、美術とは同時代的な社会の在り方との密接な繋がりの中で成立するものであり、今日私たちが生きる世界の文化、政治、経済など、社会の枠組みとその変動について広く関心を持つことが求められます。従って本講座では各方面からゲスト講師を迎えて、美術と社会の関係性について、また美術業界におけるキャリア形成をテーマとしたレクチャーもプログラムに組み込みます。美術のプロフェッショナルとしての自意識を育て、アーティストに必要とされるセルフマネジメント能力を培うために、多角的な観点で美術の社会実践の在り方について考えていきましょう。</p> <p>01. PC導入の基礎知識 02. ポートフォリオ 03. アーカイブ 04. デジタル写真と作品撮影 05. 印刷技術 06. プロポーザルと書類 07. 展示シミュレーション 08. ステートメント 09. プレゼンテーション 10. インターネットとソーシャルメディア 11. 英語 12. 確定申告(ゲスト講師 / 税理士) 13. 美術と社会(ゲスト講師 / キュレーター・研究者など / テーマ例:「ジェンダーと美術」「政治と美術」など) 14. キャリア形成論 1(ゲスト講師 / デザイナー、ゲームクリエイターなど / テーマ例:「クリエイティブ職におけるキャリア形成」など) 15. キャリア形成論 2(ゲスト講師 / 画家・アーティスト / テーマ例:「ファインアート分野におけるキャリア形成」など)</p> <p>※授業の順序や内容・構成は変更することがある。</p>
期末試験実施の有無	実施しない
評価方法・基準	平常点(グーグルフォームによる受講票の中での授業感想の記入内容など)およびレポートの内容から総合的に判断する。
教科書等	講義の中で授業用レジュメのURLをオンライン上で共有する。また参考図書・ウェブサイトの情報は適宜紹介する。
担当者プロフィール	東京藝術大学で博士号(美術)、ミュンヘン造形美術アカデミーでマイスターシューラー号を取得する。現代アートの領域で国内外を問わず美術作家として活動する。 アーティストウェブサイト: https://ryoheikan.com 授業用ウェブサイト: https://class.ryoheikan.com
講義に関連する実務経験	
課題や試験に対するフィードバック	講義内容に関する質問は授業内あるいは個別に回答する。
アクティブ・ラーニング	
キーワード	ポートフォリオ、アーカイブ、デジタルメディア、プロポーザル、プレゼンテーション、ステートメント、キャリア形成
備考	※各講座の詳細およびログイン情報はWEBクラスに掲載する。外部講師を招いた特別講義については、学内メール、ポスター、Googleクラスルーム等で情報を広く共有する。 ※本講座では、現代アートを中心的な話題として扱うが、多様な創作活動の在り方を前提とし、様々な表現領域に適用可能な拡張性のある講義編成を行うので、専攻・分野を問わず履修してもらいたい。各自の進路に向けた具体的な努力目標を提示するので、意欲的に取り組んでほしい。

閉じる